

論 文 内 容 要 旨

題 目

**INVESTIGATING FACTORS RELATED TO THE ACQUISITION
OF MASTICATORY FUNCTION IN DOWN SYNDROME
CHILDREN**

(ダウン症候群児の咀嚼機能獲得に関連する要因の検討)

著 者

水上 美樹

内容要旨

ダウン症候群（以下、DS）は、染色体疾患を有する出生児の中でも最も患者数が多い疾患である。摂食嚥下機能においては、舌のコントロール不良、開口、丸のみ、顔面や咬合の異常などDS特有の問題を抱えている。さらにDSは、誤嚥のリスクも高く、その誤嚥や食事に関するリスクを高めている要因の1つが丸のみである。

この研究の目的は、DSの咀嚼機能の獲得を妨げる要因を特定することである。対象者は、2012年10月から2017年10月に当院を訪れた319人のうち、まだ咀嚼機能を獲得していない75人のDS（男児44人、年齢12か月から36か月平均月齢 33.0 ± 7.0 か月; 女児31人、年齢12か月から36か月、平均月齢 20.8 ± 8.0 か月）である。評価に必要な情報は、対象者の診療録から、年齢、出生時体重、栄養摂取方法、偏食、感覚過敏、太田ステージで評価された認知発達、粗大有働機能、咬合発育段階（Hellman's dental stage）、および摂食時の舌突出と口唇閉鎖、咀嚼についての項目を抽出した。1年間の通院による咀嚼機能の獲得の有無とこれらの項目との関連を調査した。咀嚼機能と関連のあった項目は、年齢、低出生体重、偏食、および粗大運動であった。これらのうち、粗大運動は、咀嚼機能の獲得に最も強く関連する因子であることがわかった。